



☀	<b>食品団地</b>	5月度商況は、県内については観光関連・小売店向け共に好調。県外商況も好調で推移した。収益状況は、足元の原価高によって一部業種でまだまだ厳しい状況で、6月・7月には出荷商品の値上がりがありそう。電気代が4月度で前年対比117.4%値上がりしている。
	<b>青果卸売</b>	4月に引き続きより一層、明るい状況が飲食・宿泊関連にも現れてきている。
	<b>生鮮魚介卸売</b>	売上高は前年より増加している。エネルギー価格の上昇による冷凍ものの値上がりが止まらない。カツオは順調に入荷しているため、これからも期待したい。エネルギー、原材料の高騰について、冷凍品の価格上昇の影響がある。
	<b>電気機械器具小売</b>	5月度は、省エネ家電が前年比124%。特にエアコンが好調だった。テレビは前年比78%で悪かった。エネルギー、原材料の高騰について商品の仕入価格が上昇している。
	<b>商店街(四万十市)</b>	急に決まった「藤まつり」は3年間のブランクがあり、用意の間に合わない物もあり、来年への「慣らし運転」として縮小して行った。これから各商店街組合がまたスムーズに活動できる様取りくんでいる。
☁	<b>一般土木建築工事</b>	令和5年5月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比140.0%、前年同月比135.1%。5月の工事請負金額は前年当月比で120.4%。令和5年5月末時点の前年対比請負金額は、国:114.2%、高知県:153.0%、市町村:83.6%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に前年対比で増加しており、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事についても継続している。生コンクリート販売単価については、今後も上昇が予想され、共販率上昇に向けた取り組みを当組合も行っていく。価格転嫁について、セメント、原材料、骨材、燃料費、人件費等高騰により生コン価格引き上げを昨年より2度にわたって実施し、㎡当たり4千円から5千円上昇。高知市を除く地域においては㎡当たり積算単価も4千円引き上げとなっているが、高知市は初回値上げ分の3千円引き上げに止まっており、上昇分をすべて転嫁できているとは言えない。

☁	<b>酒類製造</b>	ゴールデンウィークで観光地は非常な賑わいであったが、販売高の方は期待した程の成果は見られなかった。コロナ禍における清酒離れの影響が続くか…。主に電気料金、運送費の高騰が価格転嫁や製品出荷に影響している。
	<b>テントシート</b>	昨年度より帆布製品の大規模な値上げが、やっと販売価格に転嫁出来そうなか感がある中で、小幅ではあるが、帆布製品、副資材等の相次ぐ高騰で非常に厳しい状況が長引きそう。価格転嫁について、大変厳しい状況が続くと思われる。
	<b>木製品素材生産</b>	梅雨の影響もあり入荷量が若干減少しているが、大きな変動はない。また、丸太価格についても先月より品物によって若干の値下がりとなっている。相変わらず、電気料の高騰が続いている。
	<b>製材</b>	目先の売上については減少予想とする声が多かった。
	<b>製紙(家庭紙)</b>	5月は連休もあり、ポケットティッシュ等の需要は旺盛であった模様。コロナ禍で抑制されていた屋内外での活動が活発となり、今後の消費に期待する。エネルギー、原材料等の高騰について、価格転嫁は浸透しつつあるが、取り切っていないのが現状である。
	<b>製紙(手すき和紙)</b>	人流・物流と活発に動き始めた。今後、コロナ禍前の状態に戻ることに期待したい。価格転嫁の理解は浸透しつつあるが、売上の伸びが鈍い状態。
<b>コンクリート製品</b>	前年度同月比62.9%であるが、前年度が突出して多かったため、平年通りの状況と考えている。エネルギー、原材料等の高騰について、セメント・鋼材等の原材料高騰による影響がある。	

☔	<b>刃物製造</b>	売上金額は昨年と比べ、県外(国外含む)への出荷は落ち込んだものの、県内卸と小売販売が増加し、ほぼ同じ数字を出している。やはり付属品の入荷が遅く、県外への出荷が遅れがちで、入荷が順調に入れば昨年を上回っていたと思われる。エネルギー、原材料等の高騰について、付属品の値上等であるがその分を価格に転嫁しづらい面がある。
	<b>機械団地</b>	建設工事関連の受注が伸び悩むなど、引き続き業況は横ばいで推移している。各社ともコロナ禍からの脱却を目指す中で、原材料・燃料価格の高騰と転嫁、従業員の確保難がネックとなっている。価格高騰と転嫁に関して①仕入原材料の高騰あり、②材料等の価格は今のところさらに上がっていくという感じではない、③段階的に価格転嫁は進んでいる、④ガンリン価格の上昇が急速で転嫁しきれない、という意見が挙がっている。
	<b>船舶製造</b>	エネルギー、原材料の高騰について、徐々に原価が押し上げられている。
	<b>珊瑚装飾品製造</b>	5月度の取引額は前年同月比84%となり、3ヶ月ぶりに前年同月比で前年を下回る結果となった。
	<b>各種小売(土佐市)</b>	今年はコロナも落ち着き、ゴールデンウィークは久しぶりに人が動いた様に思える。このまま、コロナ禍の前のように戻ってほしいと願っている。
	<b>中古自動車小売</b>	連休明けから普通車、軽自動車ともに販売台数が低迷している。消費者の動きも鈍い。市場相場は一部の車種を除けば、一定数の流通があり相場も安定しているため、仕入れ易い状況が続いている。
	<b>商店街(高知市)</b>	中央公園地下駐車場について、売上前年比は107.1%、利用台数は前年比97.5%となった。ゴールデンウィークはコロナ禍前の賑わいを取り戻したに見えたが、後半は鈍化した。よさこい祭りの参加チーム数もコロナ前の8割と、70回記念大会にしては低調であった。電気料が前年同月比で18%上昇した。
	<b>旅館・ホテル</b>	全国旅行支援延長や台湾チャーター便等を起因とするインバウンド客増加により、業界は好転したが、7月以降キャンペーン終了後の見通しは良くない。宴会部門は歓迎会・総会等の大口予約が増加しつつある。コロナ禍以前の借入れに加え、新型コロナウイルスの影響による負債が増加し、今後の返済が厳しい状況。エネルギー、原材料の高騰によってやむを得ず売価を上げているが、それを理由に予約を取り逃すケースが発生している。
	<b>旅行業</b>	組合クーポン前年同月対比300%、全旅クーポン合計対比210%。修旅は予定通り催行されている模様であるが、団体旅行の動きは未だ動きが鈍い様子。依然として旅行業界の景況は楽観視出来ない。
	<b>IT事業</b>	コロナの影響で一時期増加していた相談案件などが落ち着き、数字上は売上げが昨年と比べ減少傾向にある。今後、インボイス対応など駆込み需要はあると思われるが、原価の高騰などもあり、IT関係への投資も減ってきているように感じる。
☔	<b>卸団地</b>	景気悪化の回復のさざしがない。観光・外食業は、コロナ前の業況になってきた。特に、GWはよかった。しかし、平日の公の宴会や、二次会、三次会の店は厳しい。
	<b>生コンクリート製造</b>	5月度の全組合員の出荷量は、対前年比107.1%で1年ぶりに100%を上回った。地域的には東部・嶺北・中部・高幡が増加している。特に嶺北地区の出荷量が多くなっているが、これは早明浦ダム再生事業に関する付帯工事の影響。その他、高知市内の中央地区は対前年比60~80%程度で、減少傾向が続いている。
	<b>タクシー</b>	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:104.1%、運送回数:93.6%。令和5年度通常総会を開催した。出席者に話を聞いてみると皆同じことを言っていた。コロナ禍より少しずつ平常に戻りつつあるにも、収益はなかなか以前に戻らない、人の動きが鈍い、運転者不足、これが大きな原因と口を揃えた。

☔	<b>建具</b>	建具・家具職人の高齢化が進み、先行きが不安。原材料の高騰がまだ続いている。
	<b>印刷</b>	売上高微増、設備操業度同等と3~4月度よりは回復傾向。ただ原材料の高騰に対し製品価格改定が満足な状況でないため収益の悪化が懸念される。
	<b>ガソリンスタンド</b>	原油価格は下がり気味、政府の補助金は5月末で11円10銭が支給されている。この補助金がなくなるまでは、原油が上がれば補助金も上がり、下がれば補助金も下がるを繰り返す。市況価格の変動には至らないまま推移していくと思われたが、6月より新たな計算方法に変更されるよう9月末には補助金はなくなる見込みで2週間ごとに若干の値上げが続くかもしれない。
	<b>商店街(安芸市)</b>	物価高騰並びに電気代の値上げ、組合員数の減少など組合の運営が厳しい状況にある。5月に行われた総会にて、組合費の値上げについて検討された。エネルギー、原材料等の高騰について、価格転嫁を行ったところや検討中の店舗もあるが、値上げによる購買数の減少など影響があり得る。
	<b>飲食店</b>	前年同月比から売り上げは1~2割増えているが、光熱費や仕入れ価格が高騰しているため収益は悪化。コロナ禍以前の売り上げ比較は8~9割。新型コロナウイルスの影響として、売り上げの低下がある。電気、ガス等のエネルギー、大手メーカーの原材料等の大幅な値上げに対し、顧客離れや売り上げの低下等の懸念から業界の価格転嫁力は低い。
	<b>クリーニング</b>	コロナ前と比べて需要は増加したが、エネルギー価格、原材料高騰の影響など繁忙期においても収益好転とはなっていない。借入金返済が実質始まる企業からは資金繰りの相談などが来ている。新型コロナウイルスの影響について、リモートワークなどの行動変容で、冠婚葬祭、宴会需要は幾分改善傾向にある。物価高騰、更なるエネルギー価格、原材料の高騰も予想され、再度の価格転嫁を行う企業もある。
	<b>電気工事</b>	組合員の施工する電力引込線工事量は前月比72.2%となった。室戸・土佐清水地区以外すべての地区が減少した。材料等の値上がりは工事価格に転嫁している。
	<b>一般貨物自動車運送</b>	組合事業は前年を若干下回った。物量は荷主の業種によって回復速度が違っているように感じる。燃料価格は1円程度の値下げとなったが、まだ高止まり状態で組合員事業者の経営は厳しい状態である。新型コロナウイルスの影響について、荷物量が回復しきっていない。価格転嫁について、燃料高騰による運賃転嫁がなかなか進まない。